

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 坂戸市立若宮中学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>

☒ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒350-0255

坂戸市成願寺 3 2 7 - 2

E-mail wakaty@edu-city-sakado.saitama.jp

Website http://www.edu-city-sakado.saitama.jp/wakaty/

幼児児童生徒数 男子 2 8 4 名 女子 2 6 2 名 合計 5 4 6 名

幼児・児童・生徒の年齢 1 2 歳 ~ 1 5 歳

### 2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月 ~ 平成 3 0 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 3 0 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

### 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「全ての生徒及び職員が夢と希望をもち、生きがい、やりがい、居がいを実感する学校」を学校理念として、E S D を生徒、職員の自己実現を叶えるための活動と捉え、E S D の実践を通して自ら考える力、信頼する心、健やかな体の育成を目標とした。

具体的には、人権教育、防災教育、食育を柱に、①人間関係づくりに係わる活動、②小中連携による引き渡し訓練に係わる活動、③学校ファームに係わる学習を行った。

#### ① 人間関係づくりに係わる活動

自己理解を経た自己受容は自尊感情を高め、他者理解への基盤となる。他者理解は他者への思いやりを深めるとともに人間としての心の豊かさを育成させ、望ましい人間関係づくりに大きく寄与する。そのために、学校生活アンケート、H-Q U 等の各種のアンケートを活用して、学級における生徒の望ましい人間関係づくりに係わる取組を行った。

## ② 小中連携による引き渡し訓練に係わる活動

坂戸市では、震度5以上の地震発生時には、高校生まで保護者引き渡しすることになっている。そこで、地震発生時の避難の基本行動を理解させ、安全な行動ができる実践力を養い、生徒を安全・確実に、保護者に引き渡す方法を保護者とともに確認・実施する目的で、訓練を行った。

訓練では、趣旨を理解し、時間通りに来校してくださり、グラウンドにおいて整然と訓練を行うことができた。その後、小学校に弟妹がいる生徒は、保護者とともに徒歩で小学校に向かった。小学校においても、中学生は指示をよく聞き、守り、計画通りに訓練を終えることができた。

## ③ 学校ファームに係わる学習

環境面において、持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすことを目的に、総合的な学習の時間を使い、地域の保護者や学校応援団と協働した実践として、学校ファームの取組を行った。

具体的には、学年ごとに収穫物を決め（1年さつまいも、2年落花生、3年じゃがいも）、畝づくり、種蒔き、間引き、肥料やり、除草、収穫を行った。収穫後は家庭科とも連携し、調理実習を行った（収穫祭）。また、緑化委員会とも連携し、定期的に除草を行った。



学校生活アンケートとは？  
作新学院大学 小栗貴弘先生考案

学校満足感と登校規範を

- ①学習意欲
- ②家族サポート
- ③教員サポート
- ④友達サポート

との相関関係から読み取るアンケート

①学校生活アンケート



### ① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

■ 1. 教科の時間	■ 2. 総合的な学習の時間
■ 3. 特別活動等	□ 4. クラブ活動
□ 5. その他(自由記述 )	

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各教科（理科、音楽、美術、社会、保健体育、外国語）、領域（道徳、総合的な学習の時間、特別活動、人権教育、教育相談、環境教育、健康教育、安全指導、食育、国際理解教育、情報教育）の全体計画・年間指導計画の中にＥＳＤの目標を明記し、ＥＳＤの視点から指導内容を取り入れて教育活動を展開するようにした。具体的には、人間関係づくりでは特別活動、人権教育、教育相談を中心に、引き渡し訓練では安全指導を中心に、学校ファームでは総合的な学習の時間、食育を中心に教育課程に位置づけて、各主任を中心とした計画の下、実施した。取組後は職員にアンケートをとり、来年度の指導方法の工夫改善に努めた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初の職員会議で、学校経営方針としてＥＳＤを推進していくことを明記し、学校長から職員にも伝達した。教育基本構想やグランドデザインにもユネスコスクールとしての活動を明記し、生徒や保護者にも分かるようにした。また、校務分掌にＥＳＤ主任を設け、活動を全体的に見通せるようにした。年度末には、教科・領域部会で取組を振り返り、次年度の教育課程に生かせるようにした。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、学校職員による学校評価（内部）及び保護者、学校評議員による学校評価（外部）をアンケート形式で行っている。項目の中にユネスコスクールとしての教育実践による評価項目を設定し、活動内容について評価を行い、次年度の活動内容の見直しに役立てている。今年度の評価では、学校の活動の方法や内容について、好意的な評価が得られた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

昨年度までは学校HPによるユネスコスクールとしての実践を紹介し、活動成果を発信できていたが、今年度の人事異動により、HP更新を行える担当者が不在となり、活動成果の発信が滞ったままであった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成という点では、地区の小学校、地域の保護者や学校応援団との協働・交流・ネットワークの形成のみにとどまった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

学校内での活動に留まり、国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワークの形成を行えなかった。来年度は県内小中学校や高等学校との連携を模索していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動による効果について、例えば、小中連携による引き渡し訓練では、特に成果として、保護者が何らかの事情で来校できない場合、自ら保護者となって弟妹の安全確保に努める必要や地域にとって支援する側・働き手としての活動が期待されるという自覚が得られたことである。中学生として地域の担い手の一員として、リーダーシップの向上が見られたことは、将来の地球的な視野を持つ市民を育成するという目的において、有用であった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

引き続き、学校理念の実現を図るために、ESDの実践を通して21世紀に生きる地球市民の育成を目的として学校教育を展開していく。

具体的には、人権教育、防災教育、食育を柱に、①人間関係づくりに係わる活動、②小中連携による引き渡し訓練に係わる活動、③学校ファームに係わる学習を行っていく。

①人間関係づくりに係わる活動

H-Q U、人間関係づくりアンケートの各種エビデンスを基にして、学級における生活上の諸問題について主体的に解決する力を育成する。

②小中連携による引き渡し訓練に係わる活動

守られる存在ではなく、地域のために何ができるかという視点から、主体的に行動できる存在として、問題解決能力を育成する。

③学校ファームに係わる学習

保護者や地域と協働した学校ファームの実践を通して、ESDの価値観と行動力の育成を目指す。